

3. 対象施設毎の評価

3-1 建築計画の観点からの評価

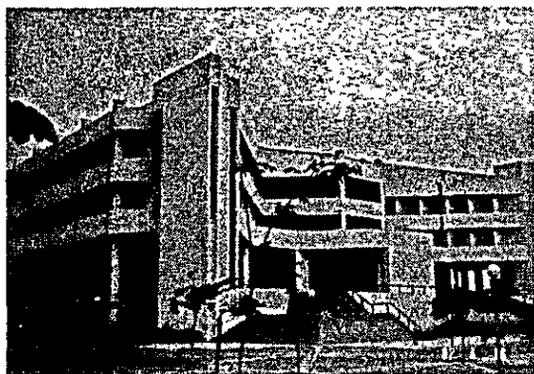
i)-1 カセサート大学(カンベンセンキャンパス)総合研究所

タイ側施設でソクラ大学, コンケン大学等と比較調査したが, 研究施設として, まとまった施設はなく, この総合研究所施設は, タイでは最高級のものと思われる。チュラロンコン大学の管理棟と図書館(最近完成)は規模も大きく, 特に図書館はユニークな設計で立派であったのが目につく。

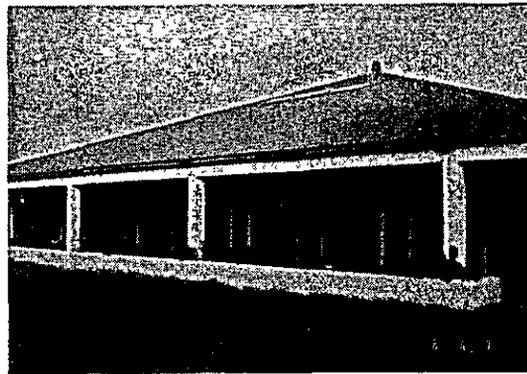
総合研究所の主な建物は, 管理棟, 図書館, 研究棟11棟であるが, 全てRC造の平屋建とし, 屋根面を大きくとり(寄せ棟)現地産のルーフタイルを存分に使用している。タイ側の大学施設は, 2階建以上が多く一般的に屋根面は目立たないように心掛け, 仕上の質も波型石綿スレート葺程度が多い。

建物の周囲に2m~3.5m巾の庇を廻し回廊としているが, 階高3.3m(一部3.6m)と低く, 空調設備による密閉型の設計で, 庇の効果は充分活かされていないし, 図書館はガラス面が大きく, 維持費の面で困難な点が見受けられる。

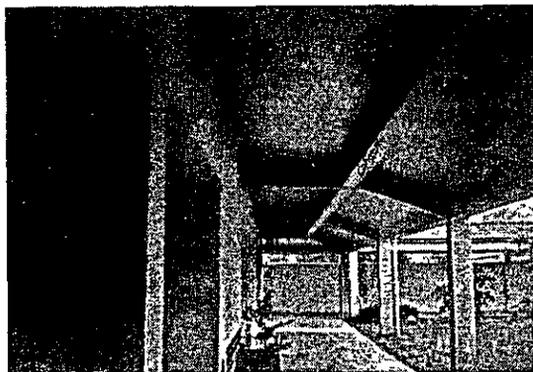
又, 中廊下式の研究棟は通風上問題がありそうである。



チュラロンコン大学図書館
(最近完成のユニークなデザイン)



総合研究所図書館
(寄せ棟の屋根で周囲回廊式で廻を廻した設計)



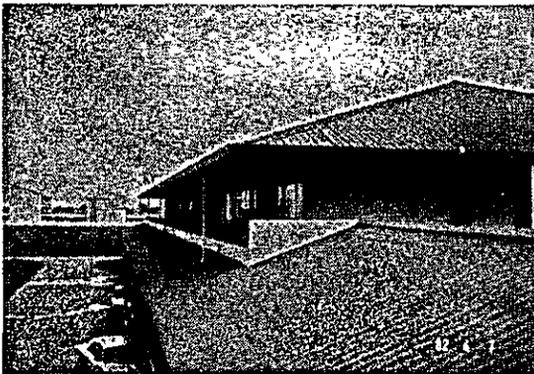
研究棟回廊
(階高は低い長い庇を設けている)

i)-2 カセサート大学(カンベンセンキャンパス)農業普及・研修センター及び農業機械センター

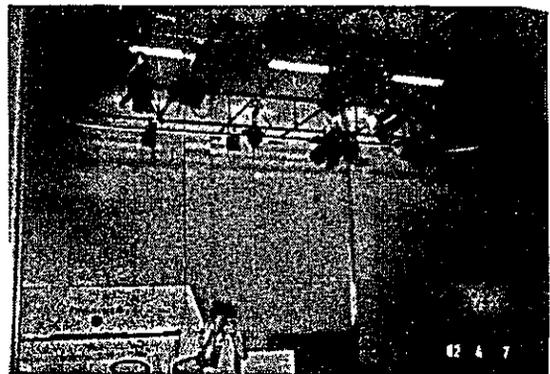
大学内にあるが、職業訓練センターと類似の施設である。コンケン職訓センターに較べてかなり仕上程度は上である。

農業普及・研修センターは全体のデザインは好ましいが、やゝ拡散型に過ぎる。管理棟はもっと開放的でよかつたと思われる。またオーディオ・ビジュアル等の施設は、タイ国の現水準としては、やり過ぎと思われる。平面的に無駄なスペースとか余裕があり過ぎる感じを受けるが、食堂は多様な使い勝手が多く3交替性では狭すぎるという苦情があり、増築を希望している。宿舍棟の格差付けは、多少疑問である。設計のディテールでは天井低く天井換気扇がぶつかるし、宿舍棟の配置が離れ過ぎている点が気になる。

農業機械センターの方も管理棟は完全密閉型の中廊下方式で設計されており庇等も中途半端で効果が少ないように思われた。自然換気をもっと十分に配慮すべきである。研究棟・作業棟は大スパンで空間的にも過大で、クレーンレールを取付けており、相当大がかりなクレーンがつくようになってきているが、取付く見透しが無い。



教室棟(全面に樋を設けた設計)



オーディオ・ビジュアル棟(テレビスタジオ内部)



農業機械センター管理棟(簡単な庇を設けている)



農業機械センター研究棟
(クレーンレール設置、スペース的には使用されていない空間が多い)

ii) マハラート病院(Ⅰ, Ⅱ期)

マハラート病院は、既存のタイ施設(改修済)とタイ側で新築した病棟(2棟)との比較の他に、ラブリ病院の建替施設(病棟工事中)及びマハサラカム病院を調査したので、それらと比較してみた。

○外来棟, X線棟, 手術分娩棟, I・C・U棟…<Ⅰ期>

Ⅰ期工事は55年11月～57年3月で完成したものであるが、タイ側のラブリ病院の外来棟, 救急棟, X線棟も比較的新しく、54年～56年に新築した施設で、規模は一廻り小さいが、内容は、ほぼ同じで両方比較して意見をのべる。

先ず大きな違いは屋根面の扱いで、マハラートは大スパンで4寸勾配の小屋組を設け屋根面の仕上をルーフ・タイルとし、デザインの基調としているのに対して、ラブリ病院の外来棟は出来るだけ屋根を見せないよう庇で屋根面を遮ぎよう設計されており、屋根面を少なくしかも波型石綿スレート板仕上としている。マハラートの外来棟待合部分は、2階分吹抜で階高7.5mもあり、その上に小屋部分の大空間を設けており、無駄なスペースとなっているのに対して、ラブリ病院では小屋スペースをゼロに近づけて、平面的に待合通路スペースに余裕を持たせた設計(階高も高い)で、自然通風もよく通る等デザイン重視と機能重視の差があると思われる。又、マハラートの外来棟の正面部分(待合スペース)の壁に開口ブロックを使いながら風の抜け道があいまいな設計のように思われた。ラブリの各棟は、保健省の標準モデル的な平面で、単純明解なプランでゆとりのある空間である。マハラート病院の全体空間は大きすぎて、多少無理のある意匠と思われる。

またⅠ期, Ⅱ期の区分で、I・C・U棟と産科病棟を複雑な形で区分しているが、もっと平面計画上で考慮すべきでなかったかと思われる。

○病棟, サービス棟(厨房・洗濯)…<Ⅱ期>

病棟は、RC～2階建, サービス棟はRC～平家建であるが、基礎工事を完了し、1階柱筋の配筋までの状況であった。平家建でもかなり鉄筋本数の多い構造設計のようである。又、設計図によると中庭を持った病棟のようであるが、通風に多少の疑問が残る。一方ラブリ病院の方は既設の単独小病棟の他に、現在RC～5階建の病棟が工事中であった。現在躯体工事を完了し仕上工事にかかったところである。エレベーター4基をもったかなり広い病棟で、スパン6.5m×6.5m程度で、部材断面も無償施設の2階建程度のものと大差ないように思われた。各病棟の医師室, 個室は密閉型で、大部屋も外来棟に較べると開放性は少いようである。

又、マハサラカム病院とマハラート病院に最近完成したと思われる(1～2年前)RC～2階建の病棟があり、両者とも殆んど同じで、標準タイプと思われる。

写真. マハラート



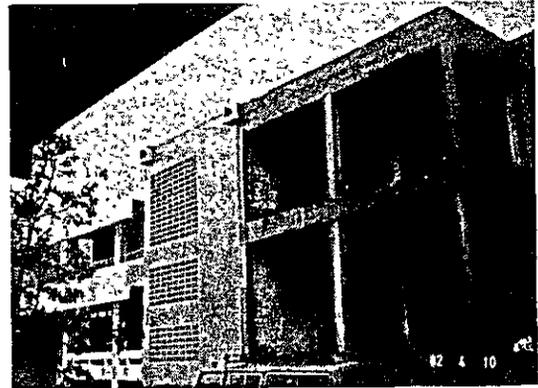
外来棟 (大きな屋根面が特色)



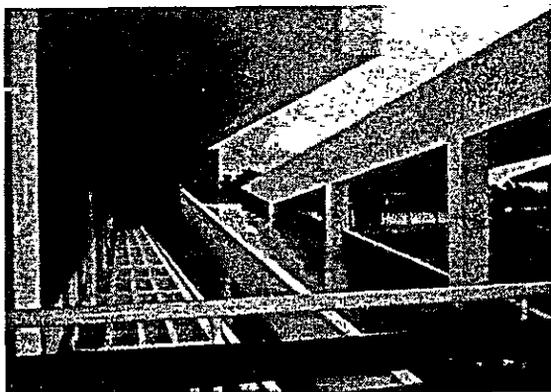
外来棟 (1階受付のホール)



X線棟 (庇部分に横ルーバーを設け、樋は設けない設計)



I・C・Uと産科病棟 (I期・II期の取合部分)



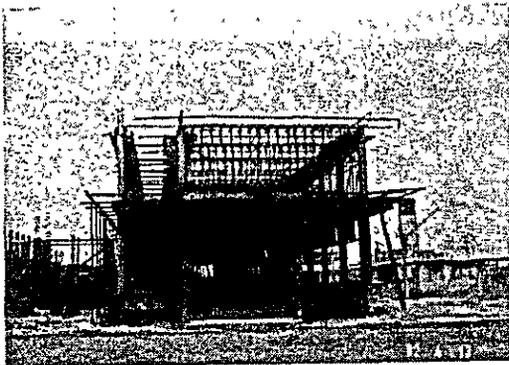
外部からのスロープ (庇の垂れ壁は厚い)



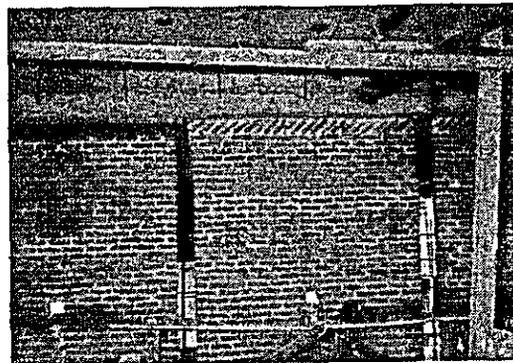
厨房棟 (平家建て鉄筋本数多い, 手前は定尺異型鉄筋 $l=10m$)

iii) マハサラカム看護学校

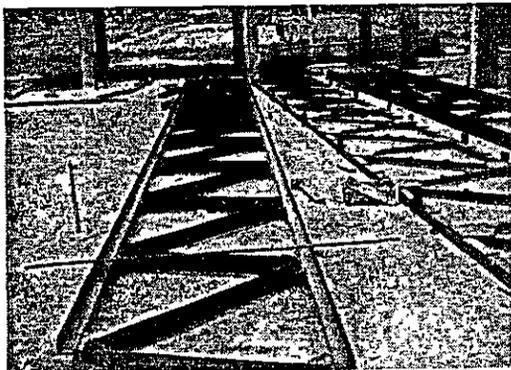
マハサラカム看護学校は、現在躯体工事の段階で、施工過程も調査できたが、かなり積極的に現地工法を採用している等、高く評価できる。躯体コンクリートの打設も梁下部分で柱のコンクリートを打止め、壁のブリック積みを施工し、次の段階で梁・床のコンクリートを打設する現地工法を採用している。屋根面は庇部分（外廊下）をコンクリート打のままで防水なしの設計とし、一般部分も屋根面をあまり大きくせず、波型石綿スレート仕上としている。また窓は木枠にジャロジーを全面的に取り入れた設計とするなどかなりタイ側施設と類似したものとなっている。構造部材断面・配筋等についても他の無償施設に比べ、断面も小さく鉄筋も少ないようである。タイ側施設のマハラート看護学校も躯体工事中であったが、この場合の床のコンクリート打を、型枠を使用せず、梁（又は小梁）の上に既成の逆T型ビームを約570mm間隔に並べ、その間に床用のブロックを敷き並べ、型枠兼用の床面を構成し、上部に30～50mmのコンクリート（配筋φ6mm@330mmタテヨコ）を打設する工法を採用していた。この方法は型枠も不用で費用も安く学校・ホテル等でよく採用されているようである。ただ、この工法を、採用できるのは逆Tビームが最大5mまで限定されるのと、振動、照明器具の埋込等の問題があり、階高を高くし、天井を設ける場合には、使用できると思われる。



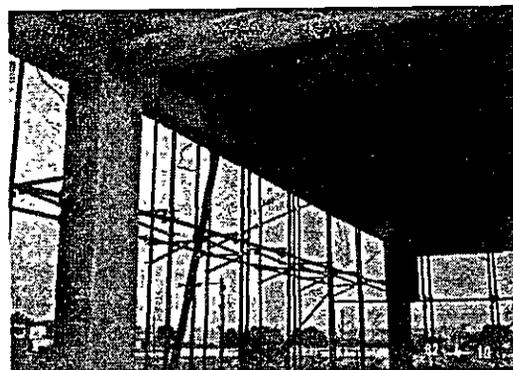
教室棟（柱のコンクリートを打ってから梁配筋）



教室棟（ブリック積み状況）



講堂（屋根面鉄骨トラス、溶接は頼りない）



マハラート看護学校教室棟
（床スラブを型枠を設けずビームとブロックを敷き並べた上にコンクリート打パイプ足場も試験的に使用）

IV) コンケン職業訓練センター

タイ側施設でラブリ職業訓練センターと比較調査を行った。ラブリの方が2年前に完成しているが、問題点が少ないように思われる。特に管理棟は空調方式の密閉型と一方は開放型の設計がされており、集中空調は維持費の面で使い切れないので苦情が多い。実習棟はコンケンの方が大きく、実際に使用されているのは少なく、規模の小さいラブリですら余裕がある。プランも両者とも中2階を教室等に行しているが、換気設備が悪く、真夏時は使えない状況であるが、特にコンケンの方は全く使用できず、ホールに製図室を移して使用しているなど、問題が多い。実習部分の上部窓の開閉も簡単には出来ない設計となっている。食堂は両者とも吹さらしの設計で特に問題はない。コンケンの教室棟は、屋根スラブの上に防水し、その上にルーフタイルを置いた設計で、壁面も南側は外廊下方式であるが北側は小さい庇のみで、窓もアルミの引違いで設計されているが、もっと現地工法を採用すべきだ。又、コンケンの倉庫はRC平家建であるが、換気が殆んど考えられていないことと、構造体もかなりコンクリート量の多い設計のようだ。ラブリの方は管理棟・各実習棟をつなぐ外廊下がないので比較できないが、コンケンでは各棟間に廻しているのはよいが、地盤の悪い所なのにRC造でしかも重い設計になっているため、あちこちで不同沈下が見られた。



回廊(コンクリート全体に重い)

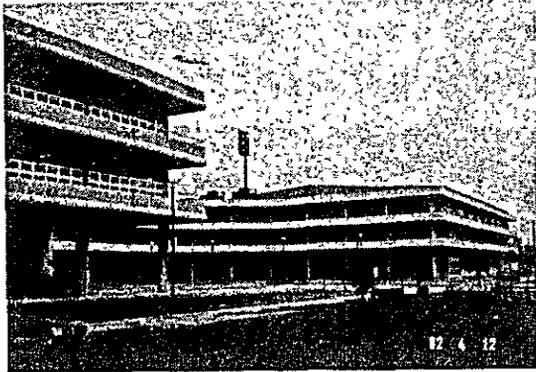


実習棟(上部建具の開閉は困難)

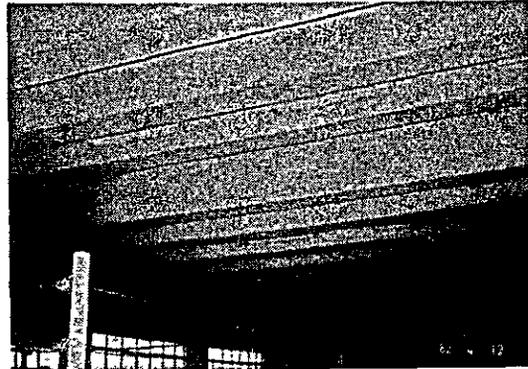
V) 青少年福祉センター

本館，スタジアム，体育館の3つの異なる機能を一体のデザインでまとめており，好感の持てる落ち着いたある雰囲気を出し成功している。

たゞ本館内に柔道・ボクシング室の大部屋を設けているが，天井高が低く，構造的にも多少無理があるように思われる。又，本館は密閉型の設計で，中庭に面した窓にジャロジーを使用しているが，もっと積極的に使ってもよかったと思われる。



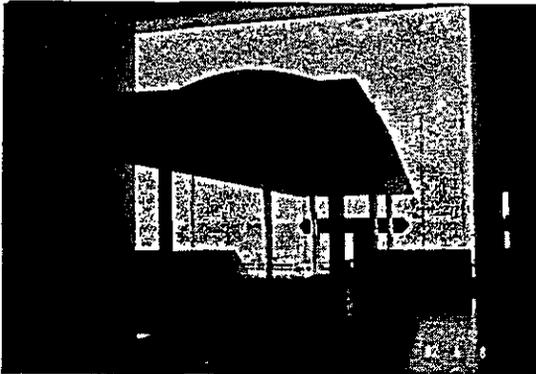
本館～体育館（一体のデザイン）



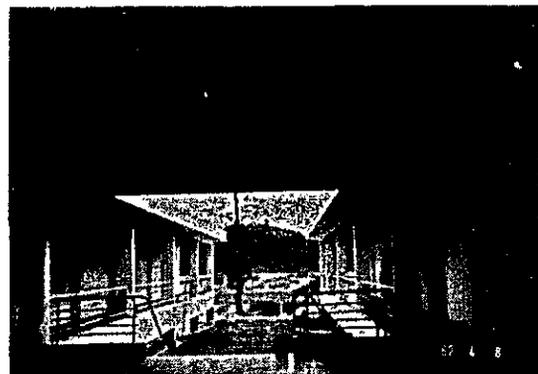
本館（柔道ボクシング室内部）

VI) ソンクラ沿岸養殖センター

タイ側施設では、カセサート大学（バンケンキャンパス）の水族館・内陸漁業センターを調査したが、あまり比較にならない（カナダの援助でできた施設）が、水族館の外観にコンクリートのルーバーを模したものをデザインしているが、機能的に全く不必要なものである。ソンクラのセンターは、海岸に接近している特殊な条件があるが、塩風に対する考慮が不足してたように思われる。ホールを大きくとり完全にオープンにして、床がぬれてもよいようにテラゾー仕上とした現地の工法をとり入れているのは評価される。敷地の関係で南北軸に管理・研究棟を配置しているが、風向きの方では問題ないようである。全体に開放的な設計で好感がもてるが正面（海に面している）の庇は中途半端で効果が少ないと思われる。手すりにパイプを使ったため、錆の発生が甚しく、材質を考えるべきだった。人員配置が、予定通り進まず、使われていない箇所も多かった。管理研究棟、寮棟ともスラブなしで小屋を小さく設けた設計をしており、構造的にも現地の工法に近い。附属棟の設計も単純で素直な設計であるが、養殖槽施設はやゝ質素すぎ、不満もありそうだ。



管理研究棟（玄関・開放的なホール）



宿舍棟（外部廊下方式を採用）

3-2 設備計画の観点からの評価

カセサート大学カンベンセンキャンパス

1. 農業普及訓練センター

◇ 教室，講堂は密閉大空間となっており，冷房設備が必要な施設となっている。

故障時，又は運転費がないときのことを考えて，もっと自然換気を取り入れた建物にし，それに合った設備方式を検討することが必要と思われた。以下に注意事項を記す。

○ 直射日光をさけること。（庇等を設ける）

○ 気積を大きくとる。

○ 密ガラス等は極力さけ，又は設けても開閉を第一に考える。

○ 自然換気とするか又は最低の機械換気設備は考慮する。

○ 屋根の断熱及び熱がこもらないような構造とする。

◇ 機材等施設が高級であるように思われた。実務上活用することがさしせまって必要でないように思われた。

録画室等の施設

1. 機械センター

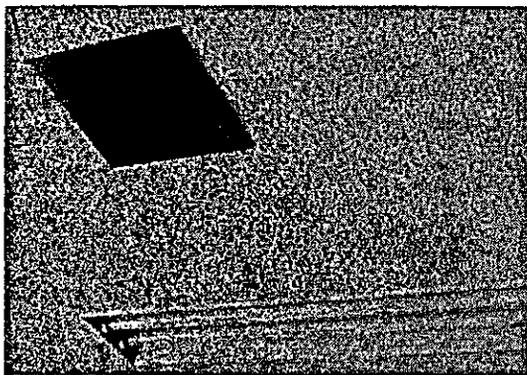
◇ 高度の機械，施設が多いように思われた。

” 農業（タイの）政策上必要な施設とは何か ” を考える必要があるように思われた。

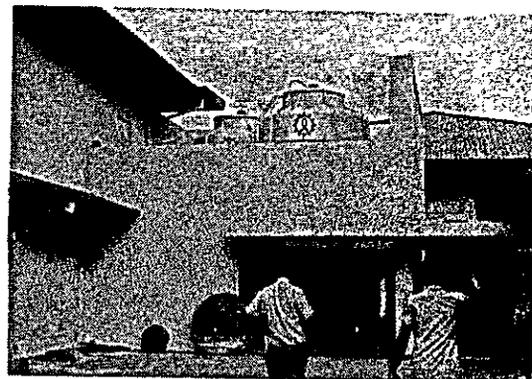
◇ 建物の設備は妥当と思われた。

（大教室の天井換気扇，自然換気を取り入れた各室，等）

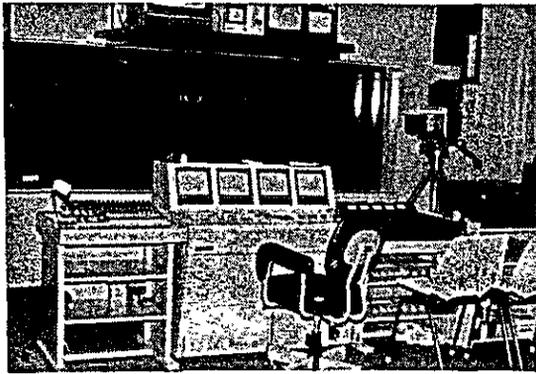
カセサート大学(1)



事務室に用いられる吹出口（タイ国製）
及び照明器具
（農業普及及び訓練センター）



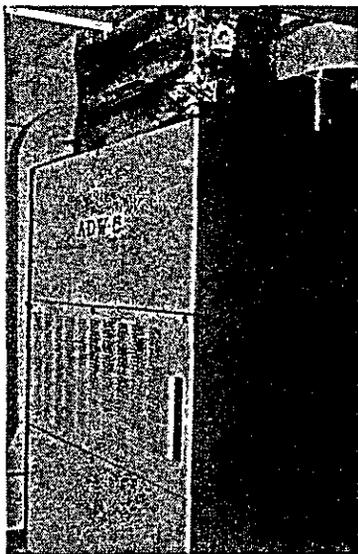
冷却塔（台湾製）
（農業普及及び訓練センター）



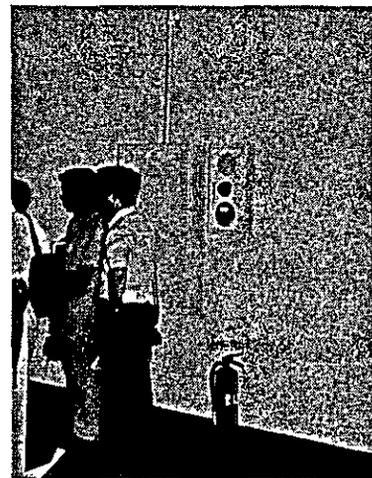
録音室
(農業普及及び訓練センター)



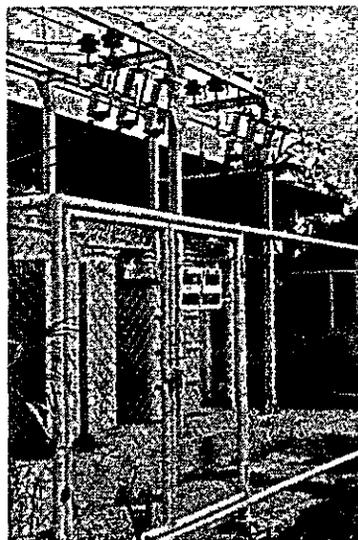
壁掛型ストール+便器(タイ国製)
(農業普及及び訓練センター)



水冷式パッケージ空調機(日本製)
(農業普及及び訓練センター)



火災報知設備(農業普及及び訓練センター)



屋外露出型変電設備
(農業普及及び訓練センター)



柱上変圧器(機械センター)



実習棟（機械センター）



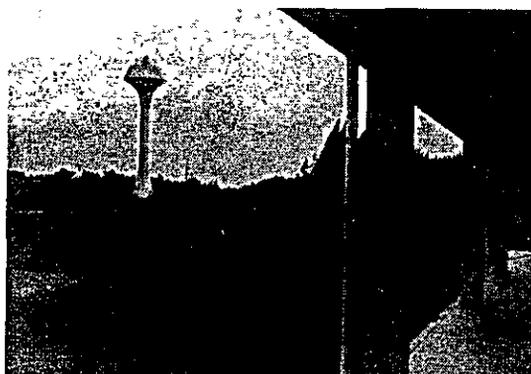
研究室用パッケージ型屋外機（総合研）



教室の天井扇及び照明器具
（機械センター）



渡り廊下の電気配管（幹線）（総合研）



屋外高架水槽（総合研）

1. 総合研究所

外部より見ただけであり、室内の施設についてはコメントできない。

一般的に感じた事は、建築面積が大きく、その中に研究室等の個室が多い関係上、セパレート型の冷房機が必要となる平面計画のように思われた。直射日光をさけた、階高の高い建物が必要に思われた。

マハラート病院

◇ 日本の考え方をした建物であり、手術室、検査室等は密閉空間である。

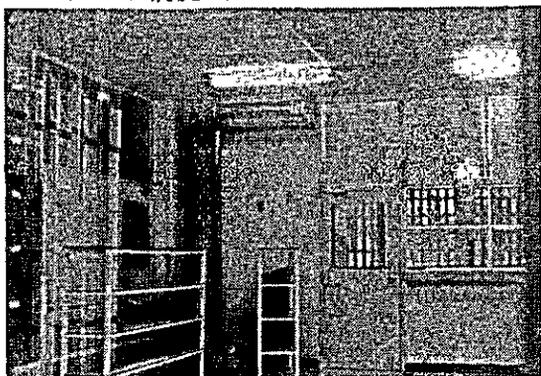
ダクト式で何室かを、まとめて冷房をしている。運転、管理の関係上なるべく系統をこまかくわけて冷房すべきであると思われた。

◇ 病院の施設としての設備は、当然必要なものと思う。

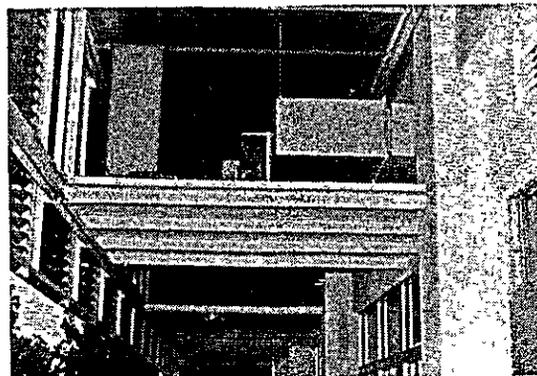
冷房方式としては、まわりの自然が残っている。自動公害もない、敷地が広いことを考えるとなるべく自然換気又は機械換気が望ましい。冷房機は必要最少限でよいと思う。

◇ 井戸の設備、井水処理設備、排水処理設備等生活に最少限必要な施設がある。これらは上水、下水等の都市施設が未整備を為に必要とされるものであり、この施設に必要な電気は、最小限確保する必要がある。またこれらの施設の運転、管理、保守の面からの技術上の指導方法、メーカ側の体制を確立しておく必要があると思われた。

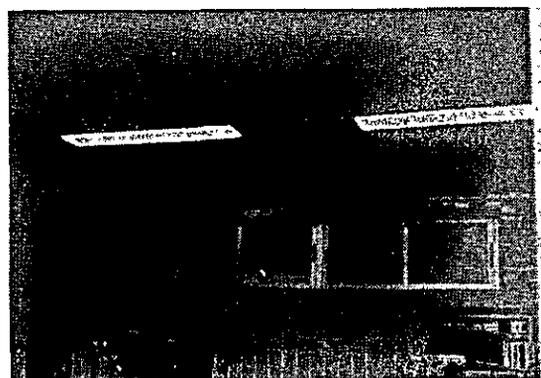
マハラート病院(1)



薬剤室冷房機



空冷セパレート型空調機の設置例（ベランダの上部を有効に利用している）

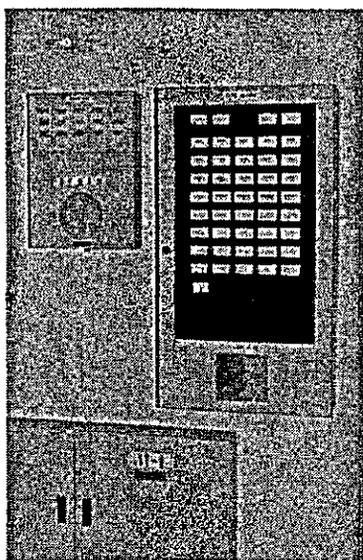


手術室の冷房機（壁掛型）

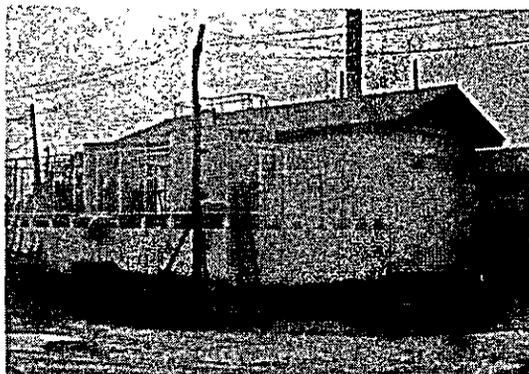


給水塔

マハラート病院(2)



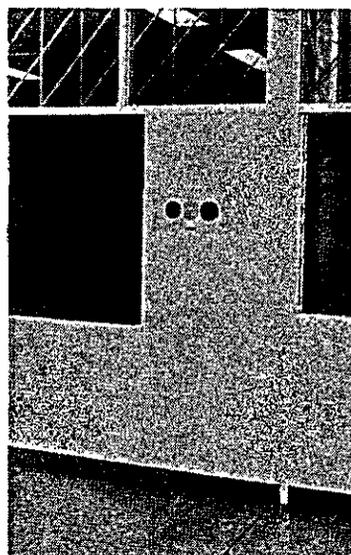
火災警報総合盤



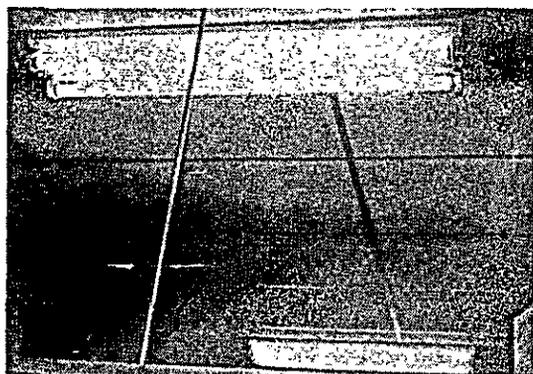
井水処理施設



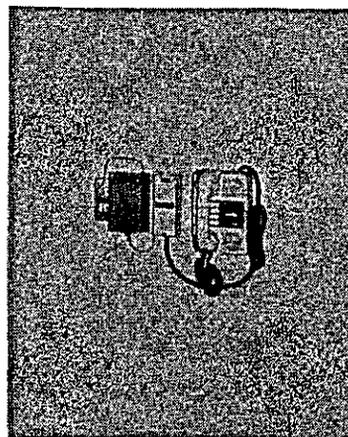
受電施設



火災報知盤



照明器具露出型(タイ国製)



インターホン受話器

マハサラカム看護学校

現在施工中の建物である。

- ◇ タイ式の構法の建物である。
- ◇ “まわり自然が残っている”，“自動車公害もない”，“敷地が広い”等を考えると、これらの条件に適応した建物そして設備方式があるように思う。

コンケン職業訓練センター

- ◇ ワークショップの換気に検討の余地がある。
給気部がない（壁面の窓ガラスが高所にあるため開閉が無理のように思われた。）
排気部の構造も検討する必要があるように思われた。
- ◇ ワークショップのあり方の検討も必要と思われた。
 - 教室，製図室との関連の考え方がはっきりしない。
 - 附属する教室の換気が好ましくない。（給排気口がない設計）
- ◇ 管理棟の各室の冷房は，ダクト式の空冷パッケージで行っており，使用上のゾーニングがうまくできないようであった。
- ◇ 敷地が広い，自然が残っている，自動車公害等がないので，この条件にマッチした建物及び設備方式があってもよいのではないか。
- ◇ 市水が不足しており（主に給水本管の水圧の不足が原因のようであった），その処置に苦慮していた。雨水等の利用を考えておく必要がある。

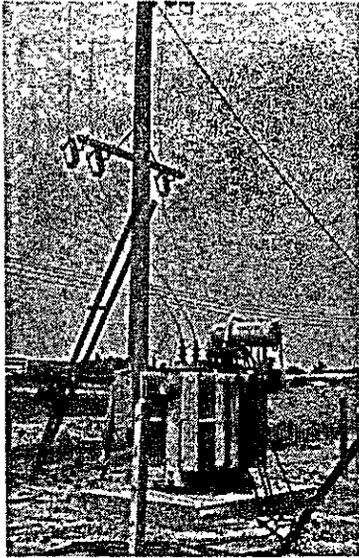
マハサラカム看護学校



間仕切壁の電線管及びブルボックス

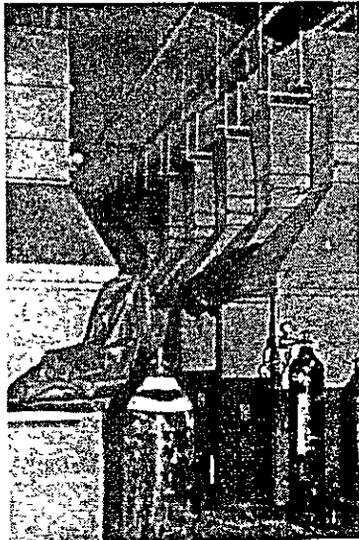


便所廻り排水鋳鉄管及び給水管

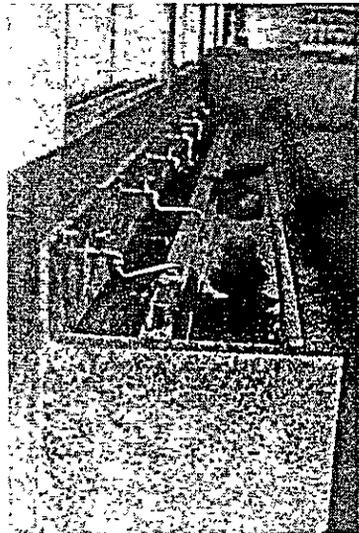


受電用トランス

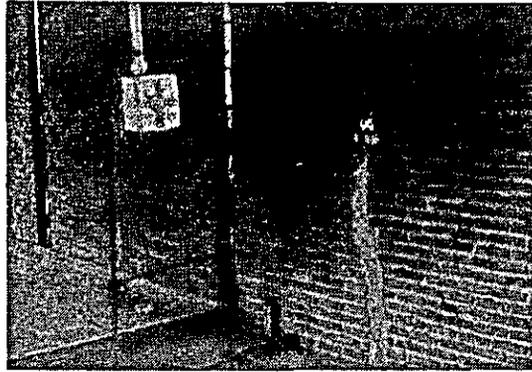
コンケン職業訓練センター(1)



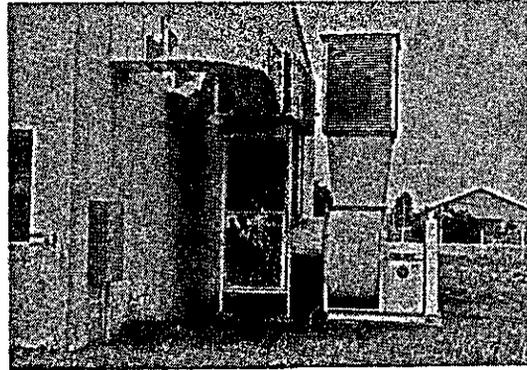
溶接用排気ダクト及びブース



とい石用人研ぎ流し及び水栓



タイ式ブロック壁の埋込電線管

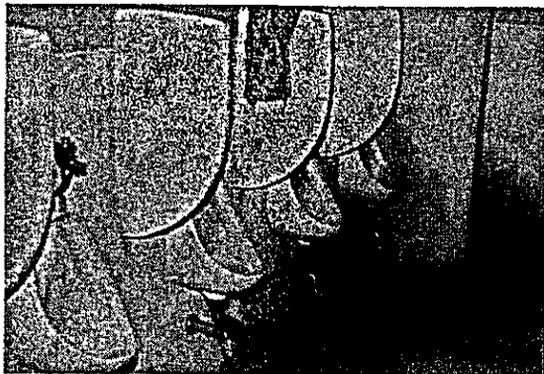


溶接用排気ファン(屋外設置)

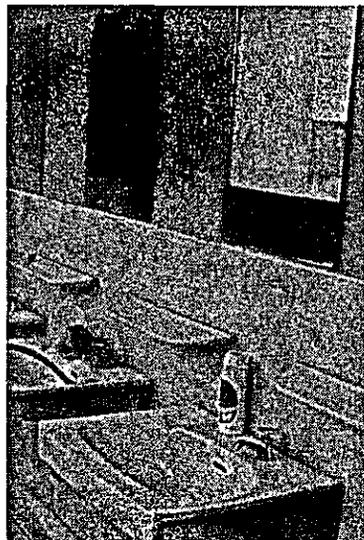


壁つきユニバーサル吹出口

コンケン職業訓練センター(2)



小便器の仕切板



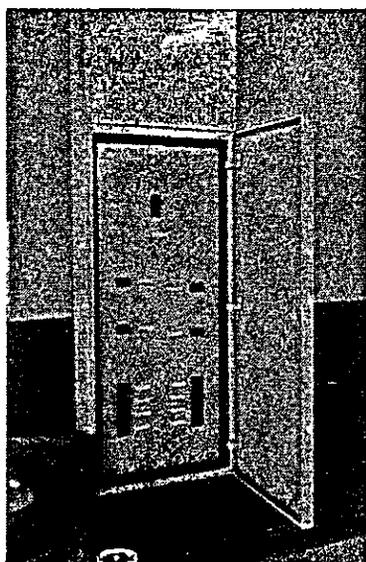
洗面器



自動車修理実習場



受電施設



照明及びコンセント分電盤



実習場の動力分電盤

ソククラ沿岸増養殖センター

- ◇ 海岸のそばの施設である。

海岸地区の居室等の換気方法はむつかしく、種々の問題がある。

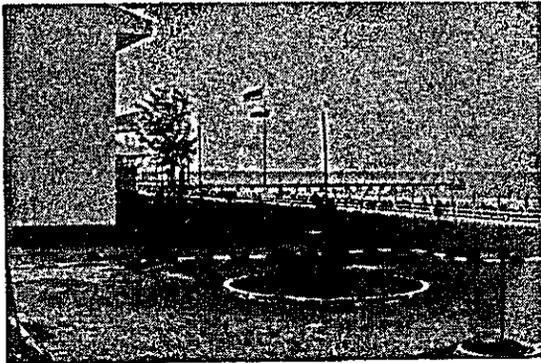
自然換気を取り入れた開放空間とした場合、ガラリの形式、開閉等建築のサッシ、等に問題がのこると思われる。

雨じまいも考慮した可動ガラリの採用や、塩害に強い材質の検討も必要である。

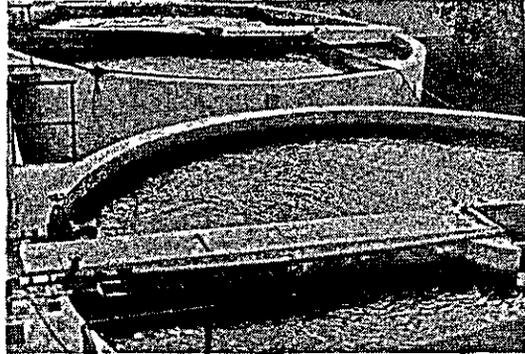
- ◇ 照明器具、各種の機械等鉄部の塩害の処理も必要。(露出部の配電盤は着脱可能なビニールのカバーが設けられていた。)
- ◇ 実験施設の規模の設定についての問題
 - 相手国の管理・運営に合った規模の設定ができ当初にできないか。
 - 将来の研究員の増員に合わせた研究施設の規模の設定として何がよいかの検討も必要である。

実験水槽の個数、ポンプ、配管容量の設定、将来機器の増設に対応できる配管等のゾーニングの必要性等。

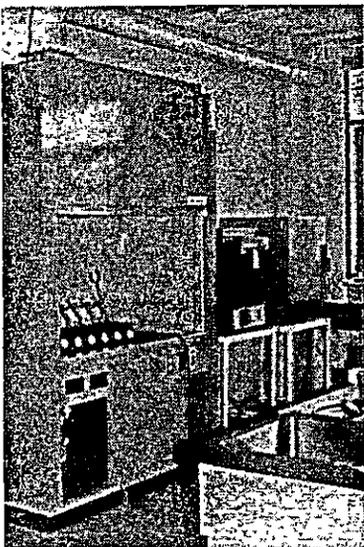
ソククラ養殖センター(1)



海水取水用ハッチ



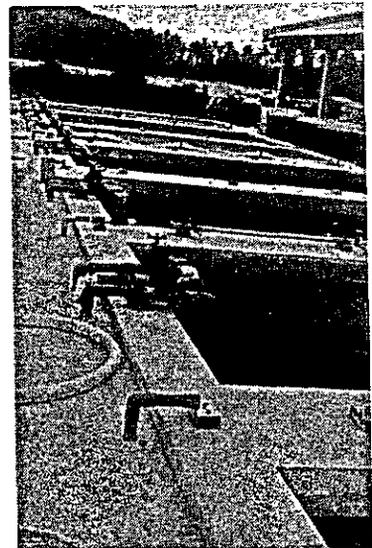
円形実験水槽



ドラフトチャンバー



渡り廊下エクステンション部の
電気配管

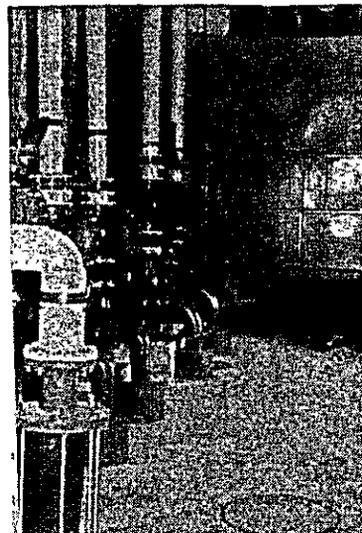


角形実験水槽

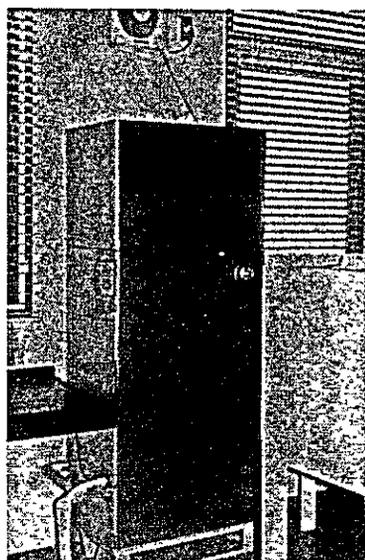
ソントラ養殖センター(2)



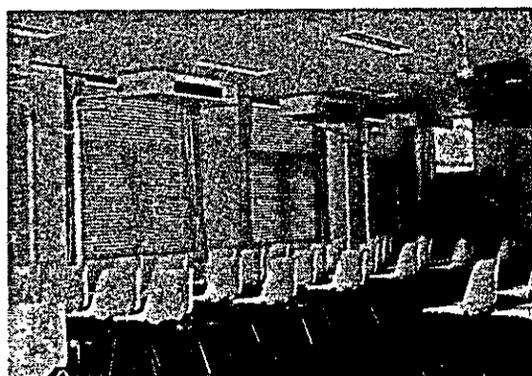
養殖実験水槽



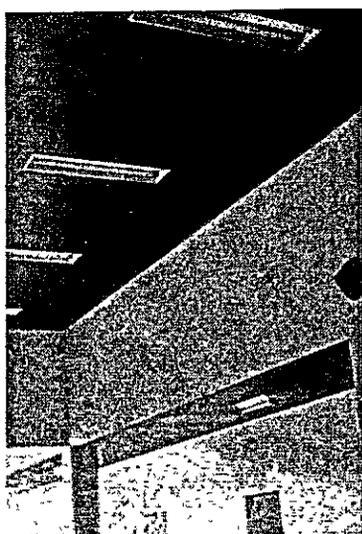
揚水ポンプ室



研究室空冷セパレート空調機



講堂及び会議室

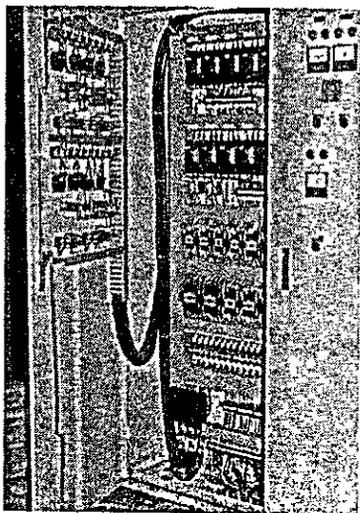


渡り廊下部の照明器具

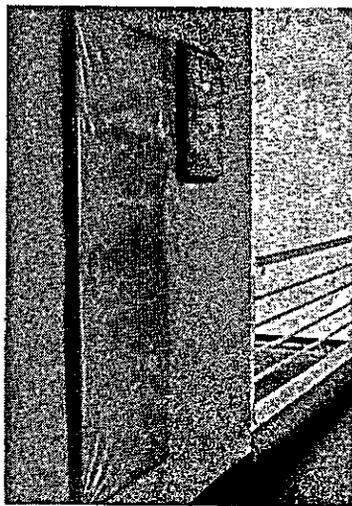


渡り廊下部の照明器具及び火災報知盤

ソングラ養殖センター(3)



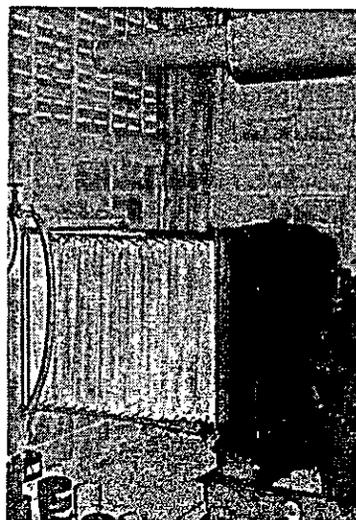
揚水ポンプ等の動力盤



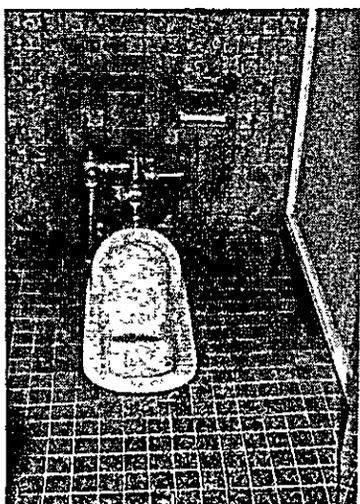
ビニールカバー付分電盤(塩害対策)



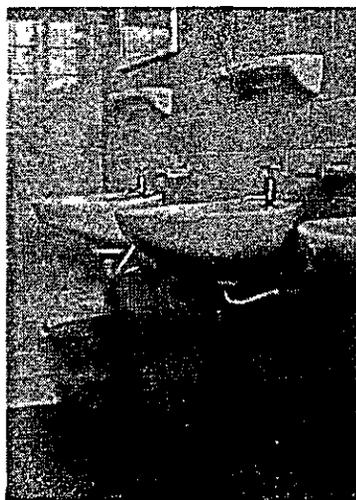
壁掛型小便器



自家発電設備の冷却用空気取り入れ部



和風大便器

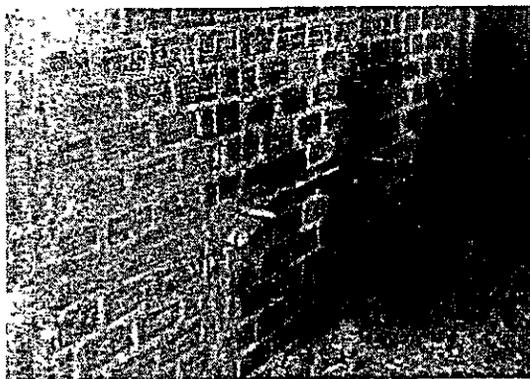


洗面器及び化粧鏡

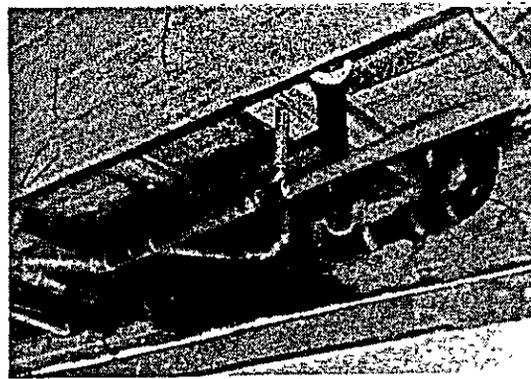
タイ王国で建設した施設についての実施例を参考に示す。

マハラー特病院看護学校

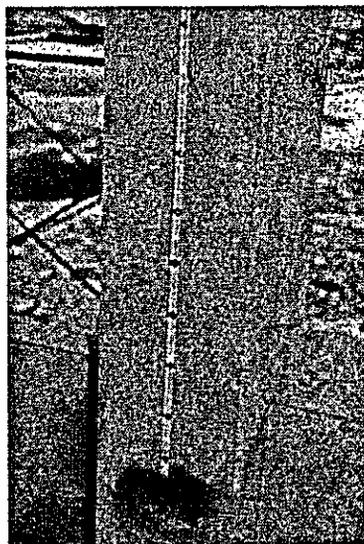
1. 建築様式はタイ式である。
 - 柱 - コンクリート（鉄筋）
 - 壁 - ブロック積
 - 床 - テーパーとT型ブロックの組合せ
2. 電気配線は露出，ビニル電線使用。
3. 便所コア部の給水配管は，ブロックをはかり埋込み配管としていた。
大便器と鋳鉄管の接続は鉛管を使用していない。



ブロック埋込用配管施行例



便所廻り排水管施行例



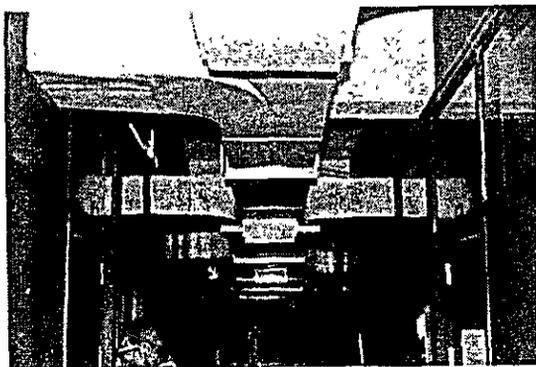
コンセント用ビニール配線（露出配線でタイでは一般に行われている配線である）

カセサート大学バンケンキャンパス

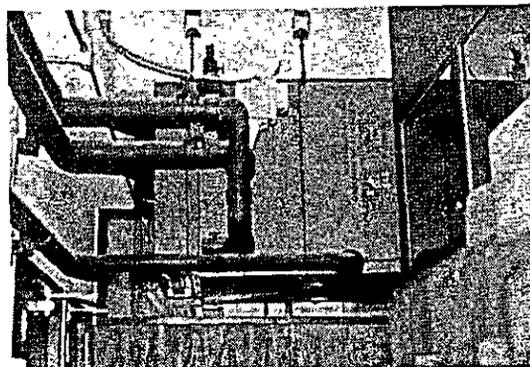
● Central Scientific Equipment Laboratory

管理棟の1Fのみを実験室に改造し、冷房設備を新設した。(1978年改修)

- ◇ 既設建物の「階高が高い」、「天井が張っていない」等の理由でダクトを設置しやすい。
- ◇ 天井に空調機を吊り、ダクトで各室に空気を吹出している。
吹出口はドア上部の間仕切り壁利用。
- ◇ 外気は井戸水で1次冷却し、各室にダクトで送風。この空調機は屋外型。
- ◇ 一部の室は廊下側天井にFCUを設置。
- ◇ 実験機器よりの排水管は、露出。給水管，電気管共露出。
電気配線と水配管が交差している所が多くあった。
- ◇ 変圧器は屋外露出で配置。防護用のサクはなかった。



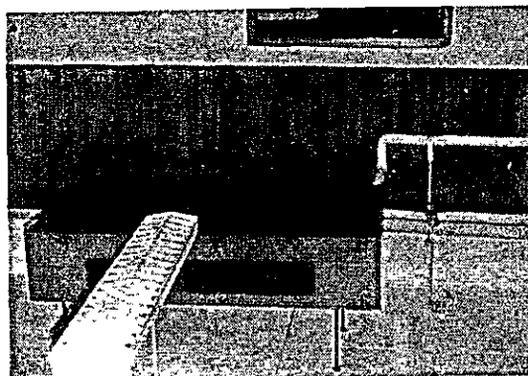
冷房用ダクト



天井吊り型空調機及び冷水配管

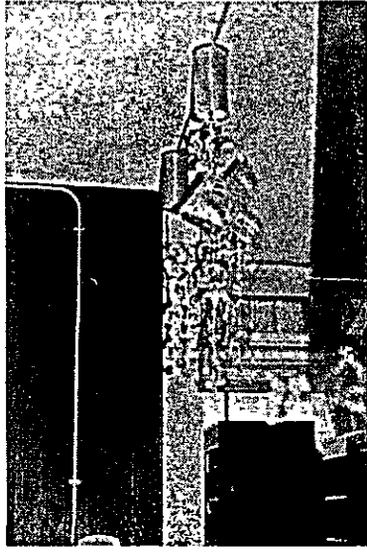


井戸水で冷却している外気処理空調機



天井吊り型ファンコイルユニット

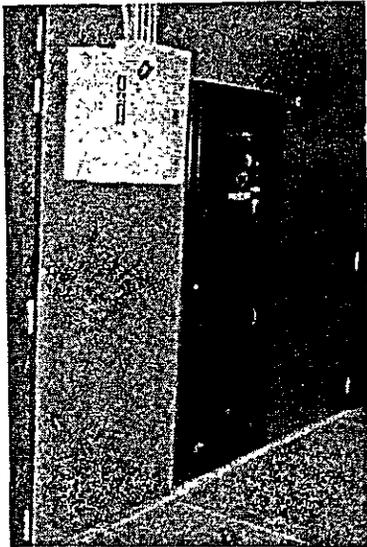
○ 淡水漁業センター



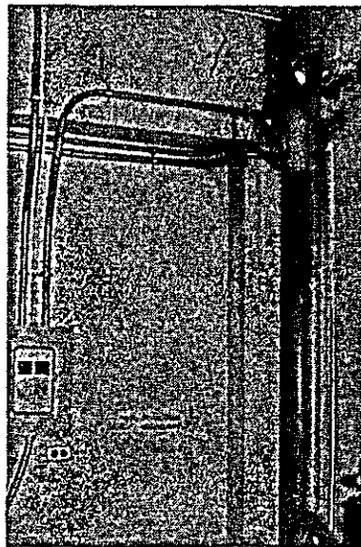
図書室の照明コンセント用の電気配管



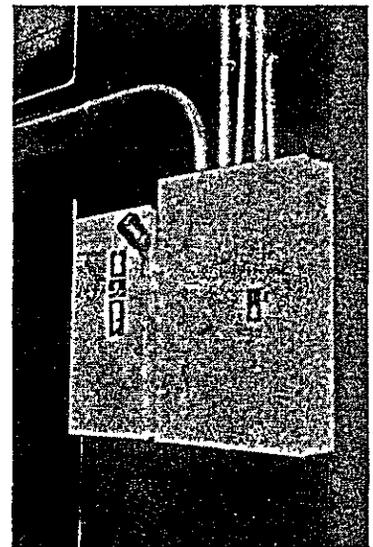
天井吊り型ファンコイルユニット及び配管



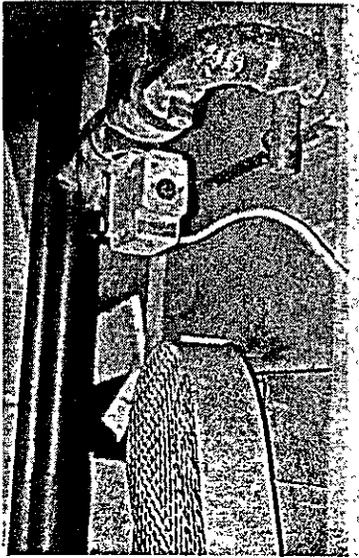
屋内消火栓



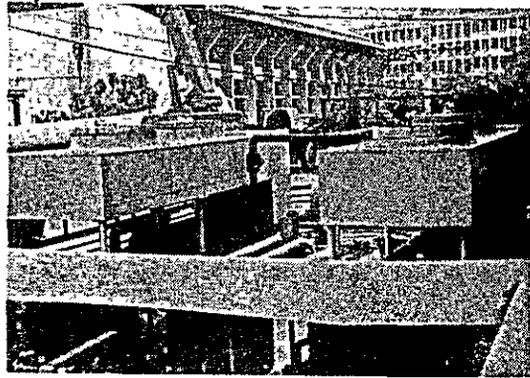
実験用排水管，動力盤及び電気配管



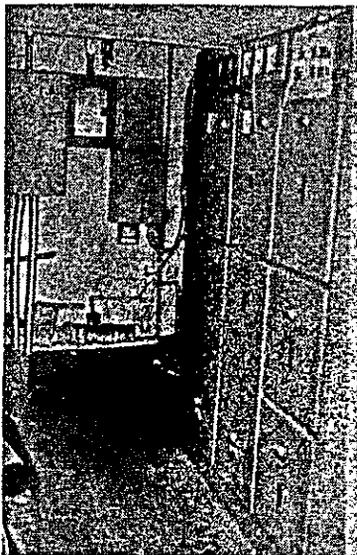
分電盤及びその配管



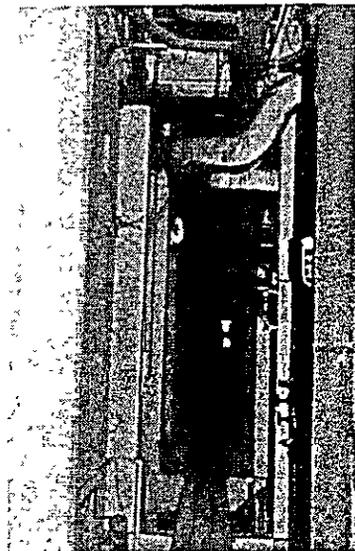
事務室系統用空調機及び制御弁廻り配管



冷凍機の空冷屋外機



空調用動力盤



パイプシャフト内配管及びダクト

ラブリ国立病院

1. ◇開放的な感じの建物である。

◇階高が高い。

◇自然通風がよく取り入れられている。

◇冷房は必要最少限－会議室，X線室，手術室－の室を対象としている。

◇電気配線の一部は露出で，幹線がケーブルのまま露出で軒下にぶらさがっていた。

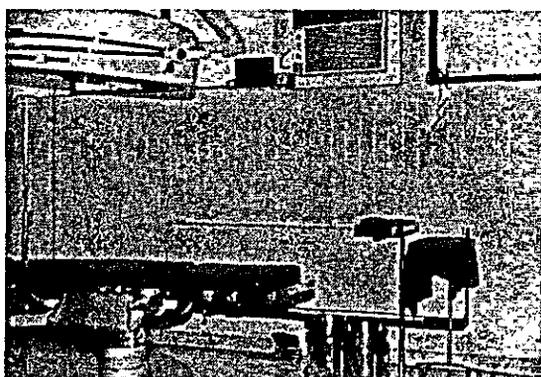
◇給水は高架タンク方式。高架水槽の形式はマハラート病院（既設棟）と同じであった。



病院待合室（自然換気用のガラリ型式の間仕切壁がよく用いられている）



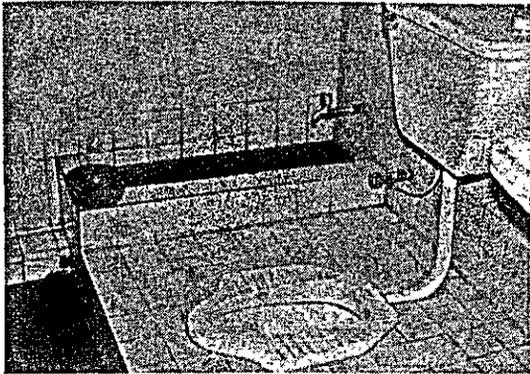
電気配線施工例



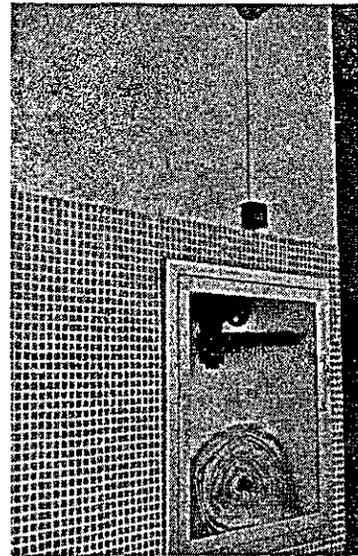
手術室の空冷セパレート型空調機



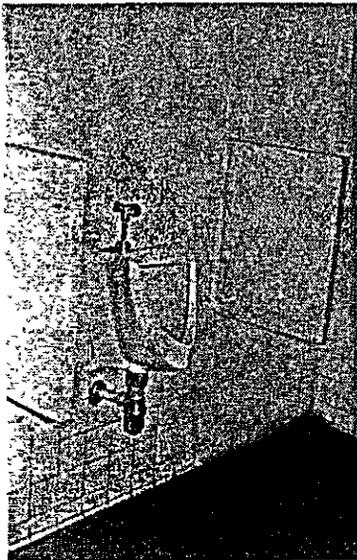
コンセント及び照明用配線



タイ式和風大便器



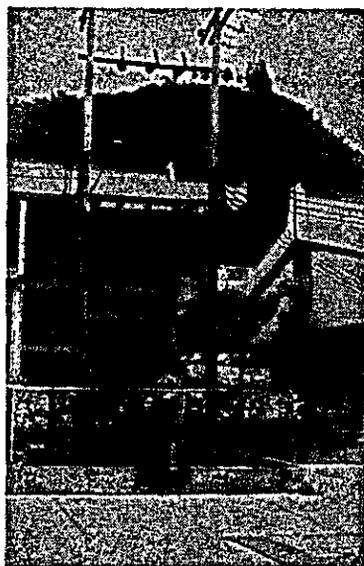
屋内消火栓及び警報器報器



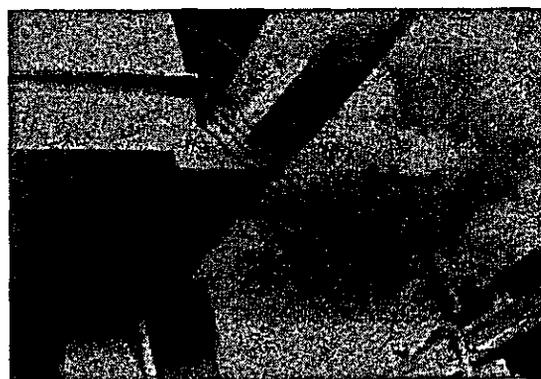
タイ式壁掛型ストール小便器

ラブリ職業訓練学校

- ◇ 1つのワークショップのまとまりがよい。(建築平面計画がよい)
作業場・教室・会議室・倉庫・シャワー室等があり、職種ごとの教育が一貫して行えるようになっている。
- ◇ ワークショップの換気方法がよい。
- ◇ 給水源は井戸で、給水方式は高架水槽方式である。設置高さは約20m位であった。
- ◇ ワークショップごとに増設していった関係上各棟毎に引込、変電設備、し尿浄化槽設備をもっていた。



電力1次側配線及び変圧器



電力引込部施工例



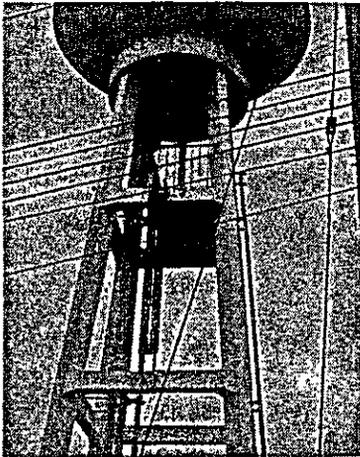
ワークショップの1例



設備関係のワークショップの1例



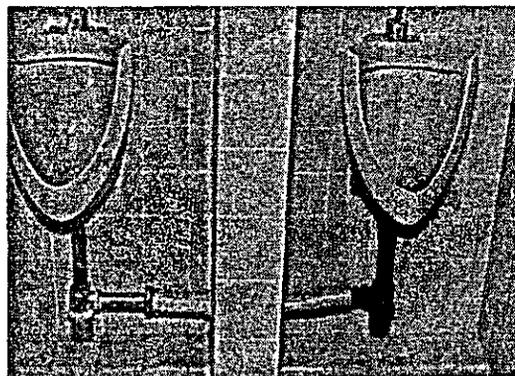
小便器の洗浄配管例



コンクリート製の高架水槽
(水位が目視でわかるゲージがついていた。)



ワークショップ内の動力盤



壁掛型小便器配管例

Ⅶ 今後の基準・マニュアル作成への提言

Ⅵ 3 - 2 に述べたように今後増大する無償建築物プロジェクトをより円滑に処理するためには各種の基準やマニュアルが必要になると考えられるが、こゝでは建築設計にかゝる基準の考え方について提案する。

(1) 基準作成の趣旨

- 1) 対象建築物の設計をその構想・企画および現地の諸条件とくに施工にかゝる条件等に即して適切なものとするため。
- 2) 前項の目的を達成するために必要となる諸業務を可能なかぎり定常業務的に処理しやすくするため。

(2) 基準の性格

- 1) いうまでもなく実用的でなければならない。単に実用的であるだけでなく相手国の実情に即して現実的であることが必要である。
- 2) しかし画一的規格的であってはならない。いろいろな事情・いろいろな意図に対応して柔軟に活用できる性格のものであることが必要である。

(3) 基準の体系

- 1) プロジェクトのねらいや施設の体系上の位置付け等から導びかれる対象建築物の格の基準
- 2) 建築物の格による設計内容や施工程度の水準に関する基準

Ⅷ 資 料

1. 収 集 資 料 一 覧

1. The Construction of Thai-Japanese Association School
- Outline of the Project - (Feb. 1981 Kume Architects - Engineers)
2. The Institute for Skill Development
(Ministry of Interior, Department of Labor)
3. The Agricultural Extension & Training Center and The Agricultural
Machinery Center, Kasetsart University Kamphaengsaen Campus
- Grant Project by the Government of Japan - (Feb. 1980)
4. The National Extension and Training Center of Kasetsart University
in Kampaengsaen Campus
- Brief Information - (Jan. 1982)
5. National Institute of Coastal Aquaculture (Department of Fisheries,
Ministry of Agriculture and Cooperative)
6. Rainfall of Songkhla
7. マハラート病院の概要 (タイ語)
8. Maharaj Hospital, Kingdom of Thailand (プロジェクト概要) (日本語)
9. Hospital Statistics (1981)
10. CPAC 社の製品紹介のパンフレット一式)
11. National Inland Fisheries Institute (Department of Fisheries, Ministry
of Agriculture and Cooperative)
(カセサート大学バンケンキャンパス内水族館の概要) (タイ語)
12. The Bangkok Metropolis Youth Center (Thai - Japan)
13. Mahasarakham Nursing College in the Kingdom of Thailand - Grant Aid
Project by the Government of Japan
14. Construction of the Mahasarakham Nursing College (13th April 1982)
15. Khonkaen Institute for Skill Development
16. 保健省所管病院の図面集一式
(Ratchaburi Regional Hospital - Master Plan - , その他)
17. ラブリ病院の紹介パンフレット (タイ語)

18. Ratchaburi Hospital - Fiscal Year Report 1979
19. Ratchaburi Institute For Skill Development
20. 標準工事費 (タイ語)
21. 建築基準法に係る省令 (タイ語)
22. Thai Industrial Standards (1980. Ministry of Industry)
23. Thai Standard for Electrical Safety
(Jan. 21, 1976 National Energy Administration)
24. ラブリ RISD の Work Shop の図面一式
25. マハラート病院, タイ側施設の図面一式
26. 無償協力に係る建築物について
 - (1) 基本設計調査報告書
 - (2) 建築, 設備各図面一式
 - (3) 同上概要資料一式
27. タイ国の建設事情 (秋口守国 1981)
28. Law List of the International Translations
29. Building Control Act 1979
30. Act on the Profession of Architecture
31. Bye-Laws of the Bangkok Metropolis

2. 調 査 関 係 者 一 覧

氏 名	所 属
久 保 田 稜	在タイ王国日本大使館参事館
近 藤 秀 明	" " 二等書記官
後 藤	" " 書記官
河 西 明	国際協力事業団バンコク事務所長
坂 牧 嘉 昭	" バンコク事務所員
Mrs. Kaisri Tansiri	Director, Design and Construction Division, Ministry of Public Health
Mr. ラ ソ ソ	Director, Provincial Hospital Division, Ministry of Public Health
Ms. Suchit	Provincial Hospital Div., Ministry of Public Health
Mrs. Nitasna Theeravit	Deputy Director, National Institute for Skill Development, Department of Labour (NISD)
Mr. Vicha Theera Anuwath	NISD, Department of Labour
Mr. Tsugio Nagai	National Extension and Training Center, Kasetsart University, Kamphaengsaen Campus
今 泉 七 郎	Agricultural Machinery and Equipment Center, Kasetsart University, Kamphaengsaen Campus
川 口 桂 三 郎	Team Leader, Ku-Japan Project, Ku-Japan Unit Office, Kasetsart University Bangkok Campus
増 尾 致 和 むね かず	National Institute of Coastal Aquaculture
Dr. Supas Burapat	Director, Maharaj Nakhon-Srithammaraj Hospital
Mr. Wattana Thongamkeo	Director, Khon Kaen Institute for Skill Development (KISD)
Dr. Decha Vitprayoon	Director, Ratchaburi Hospital

氏 名	所 属
Ms. Ampai	Matron, Ratchaburi Hospital
Mr. Preamsri Wan	Director, Ratchaburi Institute for Skill Development
Mr. Varavit Lontong	Director, Building Control Division, Bangkok Metropolitan Administration
Mr. Khamnong Subbhasiddhi	Manager, Finished Concrete Products Plant, The Concrete Products and Aggregate Co., Ltd. (CPAC)
Mr. Phala Phanawat	Engineer, CPAC
Dr. Narong Rerkshanandana	Manager, Construction Service Department, CPAC.
Capt. Bhakdinaronk Nunbhakdi	Central Sales Office, The Siam Cement Co., LTD.
宮 崎 孝 雄	久米建築事務所 海外室主任 (Thai Japanese Association School Project)
Mr. Pravat Piyachov	- ditto -
久 野 秀 晴	㈱日建設計計画主管
馬 場 正 三	(" 設計監理部) Mahasarakham Nursing College Project
酒 井 茂	㈱日本設計
徳 弘 晴 信	"
林 五 十 鈴	Managing Director, Thai Japan Construction Co. LTD. (西松建設㈱, タイ国営業所長)
亀 井 尚 三	Manager, Engineering Section, Thai Japan Construction Co., LTD.
大 河 修 治	Manager, Mahasarakham Project, Thai Japan Construction Co. Ltd.
土 山 克 正	Director, Thai Sumicon Co. LTD. (住友建設)
大 山	Thai Sumicon Co. LTD.
山 田	Director, Thai Takenaka International LTD.

氏 名	所 属
渡 辺 泰 行	General Project Manager, Thai Takenaka International LTD.
森 下 鈴 木	タイ大林
小 川 光	Manager of Maharaj Hospital Project, Konoike Construction Co. LTD.
中 村 敏 永	Deputy Manager of Maharaj Hospital Project, Konoike Construction Co. LTD.
Mr. Hiroshi Nakayama	Thai Meidensha Co. LTD.
Mr. Masaharu Seto	Thai Kenzaisha Co. LTD.
Mr. Masahiro Kaneko	Siam Kyowa Co. LTD.
Mr. Chikao Hayasaka	New Bangkok Electric Co. LTD.

JICA